

東温市地域おこし協力隊 高橋克司
退任のまとめ

東温市地域おこし協力隊の、3年の任期が終わります。

今、思うことは本当に濃密な3年間だったなということです。

移住という選択が、自分にとっても、家族にとっても正しかったのか、迷いながらの3年間でしたが、今は、素直にここに来てよかったと思えます。

1年目、協力隊に就任して、まず私が考えたことは、3年後の生活です。定住のためにも、どのような形で自分の家族を養っていくか。私は自分の本職である音響会社を起こすことを考え、個人事業主として“東温音響”を立ち上げました。私の活動は、アートヴィレッジ構想の推進と、東温音響の事業拡大、この二つを柱に進めていくことになります。この二つは相性が良く、どちらの活動も相互に作用し、営業面でも両輪として進めていくことができました。

実際、とうおんアートヴィレッジフェスティバルに関わっていた、劇団、ダンスカンパニー、製作者から、“東温音響”にお仕事をいただき、協力隊活動以外の副業として、収入を得ることができました。

アートヴィレッジ構想の推進では、東温アートヴィレッジセンターの劇場機能の強化を軸に考えました。協力隊就任前から、アドバイザーとして考えていたことを実行に移すときです。トラスの設置、大黒幕の発注、照明機能の増設など、シアターNESTが、より使いやすい施設になるよう考え、実行していきました。

アトリエNESTでのダンス公演、ヤミーダンスによる、書道とダンスのコラボ公演“その中へ”では、フリースペースとしてのアトリエNESTの可能性を引き出し、シアターよりも間口が広く、自由度が高いこの場所を、新たな表現の場として生まれ変わらせ、その後のSCHOP PROJECTの公演や、アートヴィレッジライブ、とうおん舞台芸術アカデミー発表会などのとりくみに、生かされていくことになります。その他にもキッズミュージカル、TOON戯曲賞リーディング公演と審査会などで、愛媛で活動する沢山の舞台関係者と出会い、1年目を終えます。

2年目、引き続き先程の両輪を軸にした活動を考えておりましたが、自身でも企画をというお話があり、音響のワークショップを開催します。内容は、蓄音機からはじまる音響機器の歴史、ロックコンサートやクラブサウンドの大音量の体験、お芝居の音響プランの実践とオペレートの実演を行いました。アートの協力隊、地域の方々、地元劇団など、たくさんの人に関わってもらい、今まで繋がり得なかった人たちが舞台上で繋がる、とても実りある公演となりました。

同じ時期、地域の方からお祭りの音響と照明をお願いされ、スピーカーや照明卓を購入し事業拡大も図ります。このころから、音響以外の相談を受けることも多くなり、照明や舞台のことも本格的に勉強し始めます。そのことが、大正ロマン館での公演“人形の恋物語”にもつながります。

TOON 戯曲賞公演、“草の家”では舞台全体を統括しながら、音響プランナーとして参加し、四国学院大

学の芸術監督、西村和宏さんと初めてお仕事をさせていただきました。このことは、コロナ禍の3年目を乗り切る布石となりました。“草の家”は、公演自体も大成功をおさめ、一つの舞台公演から、多くのスタッフ、キャストの出会いも生まれ、そのことがまた新たな舞台公演へと繋がる、理想的な公演となりました。

3年目、コロナ禍の年。奇跡的に無事に千秋楽を迎えた“草の家”直後から、緊急事態宣言により東温アートヴィレッジセンターは休館します。協力隊任期3年目。このまま舞台スタッフを続けていくべきか真剣に悩みました。しかし、多くの舞台関係者の呼びかけで、文化庁による文化芸術活動の継続支援事業が創設され、愛媛県の、新ふるさとづくり総合支援事業にも、市の担当者の後押しもあり採択され、東温音響としては照明機材、ワイヤレスマイク等、あらたな力を蓄える良い時間にもなりました。2021年、舞台公演は感染症対策を行いながら実施する方向で次々に動き出し、1月から3月まで、毎週違う公演を、違う場所で開けている日々でした。その中でも、近藤林内物語と、とうおん舞台芸術アカデミーの発表会は、東温アートヴィレッジセンターの劇場機能強化の集大成となり、このことが今後もこの場所で新たな感動を生む、一助となればと願います。

3年の間、東温市企画政策課の皆様、東温市の多くの地域の方々に、本当にあたたかく迎えていただき、そして、大変お世話になりました。あらためて御礼申し上げます。

特に、田井係長には感謝の言葉しかありません。

初めて東温市役所を訪れ、市内を案内していただき、クールスモールの駐車場で、アートヴィレッジ構想への熱い想いを聞かせていただいた時、“僕は舞台のことは何も分かんのですよ”と正直に話されていたのが印象的で、この人なら信頼できると思ったのが、全てのきっかけでした。

私は、アートヴィレッジ構想は素晴らしい構想だと思っています。少なくとも私にとって、私たち家族にとってはそうです。

この先に続く協力隊の方々に、伝えたいことは、

目の前の状況が厳しくても、それは変えられる未来だと思って立ち向かって欲しいです。

現に、私がそうでしたから。

そして、任期中は退任後の事を常に意識して活動することと、早めの起業をおすすめします。

今後は一市民として、アートヴィレッジ構想を応援させていただきます。

3年間、本当にありがとうございました。

高橋克司